

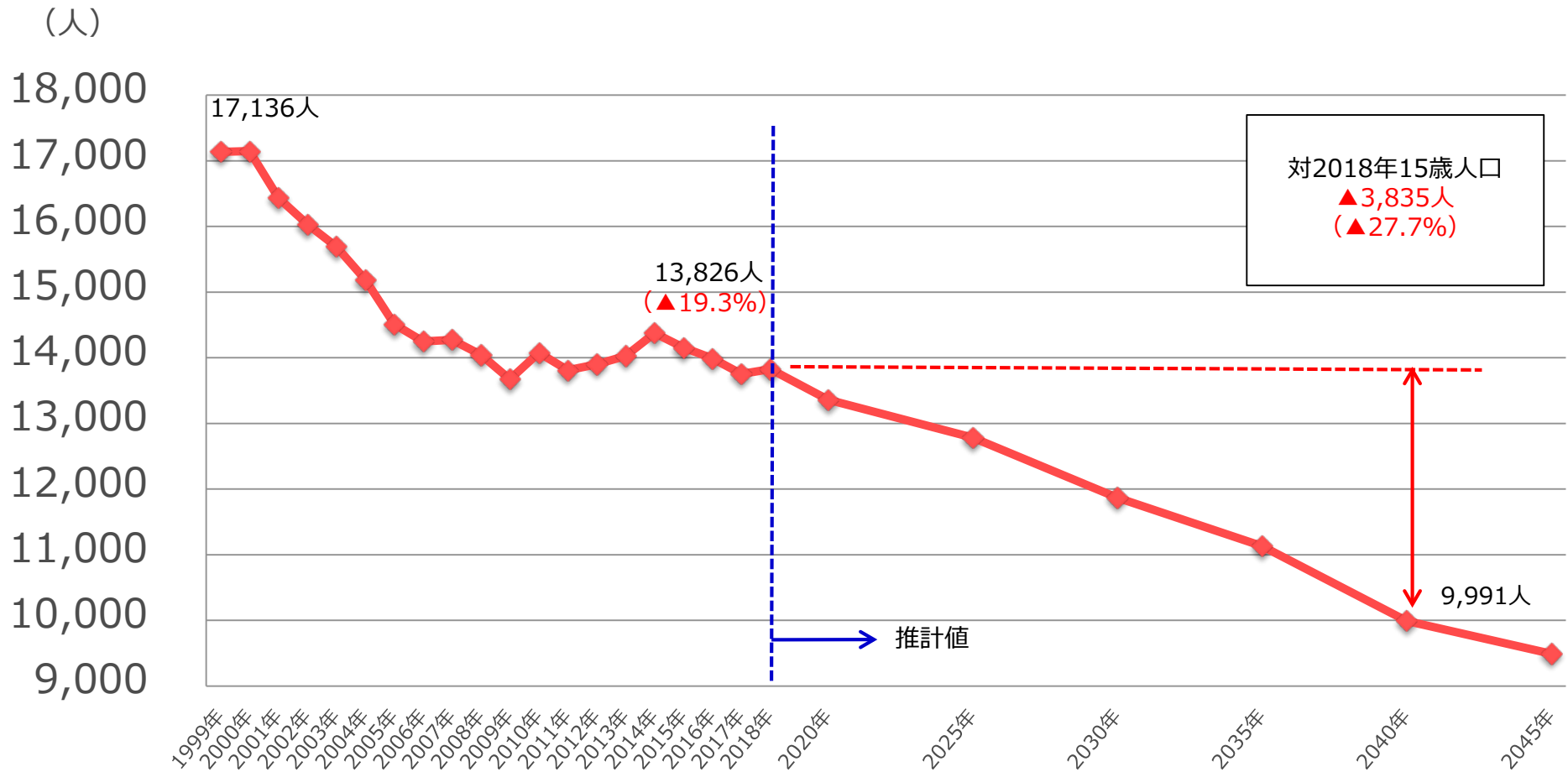
第1回

少子化に伴う高等学校教育のあり方に関する有識者会議

－現状と将来推計について

令和元年12月16日（月）
神戸市企画調整局

1. 神戸市内の「15歳人口」の推移及び将来推計

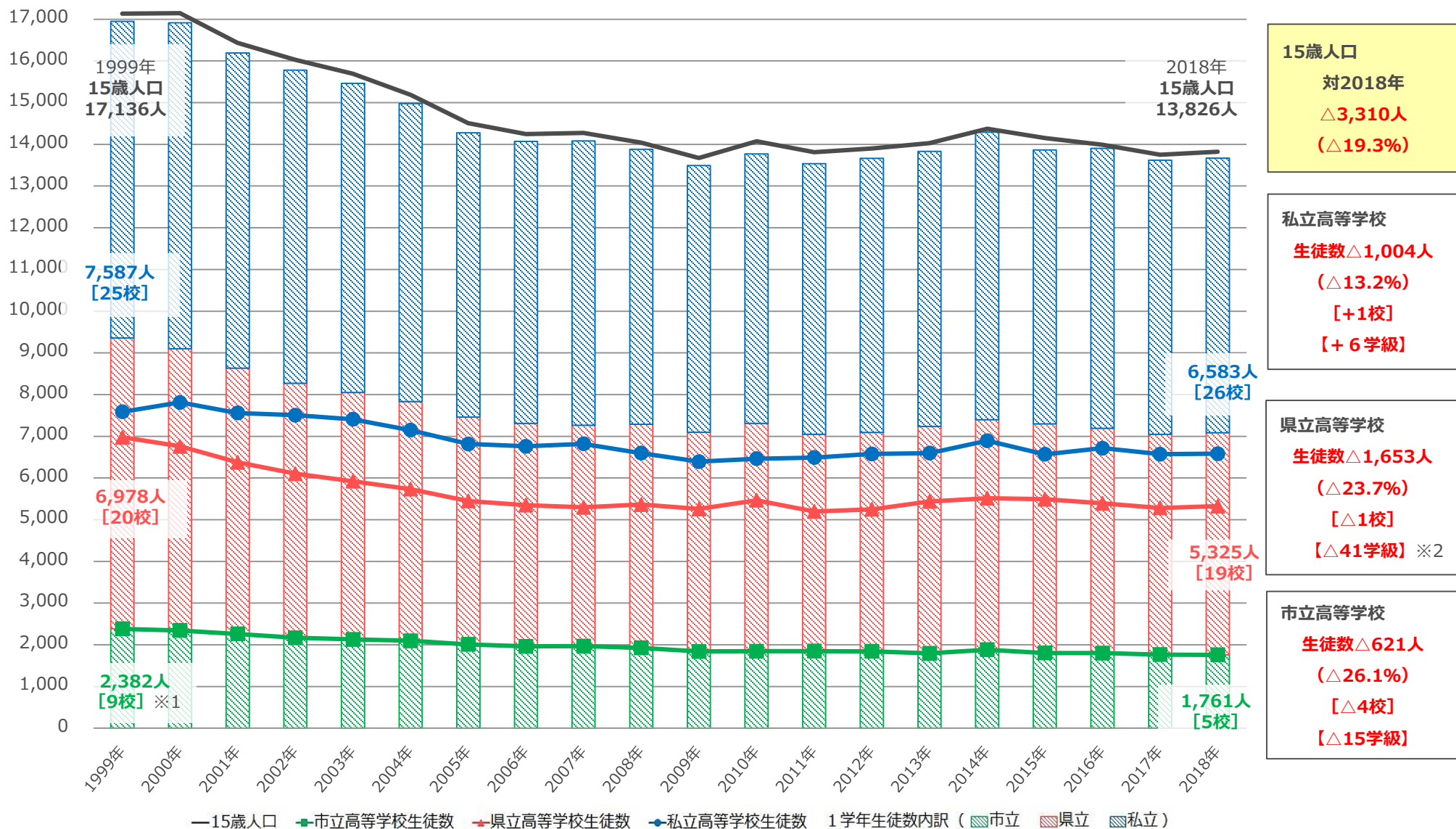


出典：「住民基本台帳人口（各年3月末時点）」

※2012年以前の15歳人口は、2013年時点の生徒数（1学年）に対する人口の割合で算出。

また、2020年以降の15歳人口は、国立社会保障・人口問題研究所の将来推計人口の15-19歳人口を2018年3月の各年齢比で按分し算出。

2. 神戸市内15歳人口と市内高等学校（全日制）の生徒数（1学年）の推移



出典：「住民基本台帳（各年3月末時点）」及び県立、私立の生徒数（1学年）は兵庫県教育委員会より数値入手。（※2012年以前の15歳人口は2013年時点の15歳人口と生徒数の割合で割り戻して算出。）

※1 1998年～2000年は六甲アイランド高等学校への統廃合の過渡期であり、六甲アイランド高等学校・赤塚山高等学校・神戸商業高等学校の3校が存在する。実質1校減のため、2校分とカウントし計上。

※2 県立高等学校の学級数の減少数については1学級を40人と仮定して計算した場合の参考値。

3. 意見交換の前提

- 我が国の人口は平成20年以降減少に転じ、世界的に見ても空前の速度と規模で少子高齢化が進行するなど、厳しい事態に直面している。
- 神戸市においても、2018年までの20年間で15歳人口が約2割（3,310人）減少したが、今後2040年までには、さらに約3割（約3,800人）の15歳人口の減少が見込まれる。
- 次世代を担う人材を神戸から輩出し、あるいは惹きつけていくために、公立高等学校と私立高等学校が連携して、質の高い神戸市内の高等学校教育を提供していく必要がある。